

累世外戚

〔大鏡七太政大臣道長〕藤氏の御ありさま、たゞひなくめでたし、おなじことこのやうなれど、又つゞきを申すべきなり、后宮御おや、みかどのおほちとなり給へるたゞひをこそはあかし申さめとて、

一 内大臣鎌足のおとゞの御女二所、やがてみな天武天皇にたてまつり給へり、をとこ女みこたちおはしませせど、みかどとうぐうたゝせ給はざめり、

一 贈太政大臣不比等のおとゞの御女二所、ひとりの御女は、文武天皇の時の女御、○宮みこむまれ給へり、それを聖武天皇と申、御母をば宮子娘、○原作光明皇と申き、いまひとりの御女宿媛

は、やがて御おひの聖武天皇に奉りて、女みこらみたてまつり給へるを、女帝にたてまつり給へるなり、たかのゝ女帝と申これなり、四十六代にあたり給ふ、これおりたまへるに、又みかどひと

り、○淳をへだて、又四十八代にかへり給へるなり、母后を贈皇后と申す、まかれれば不比等の大臣の御女二人ながら后におはすめれど、高野女帝の御母后は、贈皇后と申たるに、おはしませ

ぬよに后にゐ給へると見えたり、かるがゆるゑに不比等大臣は、光明皇后、又贈皇后宮の御ちゝ、聖武天皇并高野女帝の御おほち、或本又高野御母后いき給へるよに后に立給ひて、其御名を光明

后と見ゆ給はす、

一 贈太政大臣冬嗣のおとゞは、皇太后順子○明后の御父、文徳天皇の御祖父、

一 太政大臣良房のおとゞは、皇太后宮明子○徳后の御父、清和天皇の御おほち、

一 贈太政大臣長良のおとゞは、皇太后宮高子○和清后の御父、陽成院の御祖父、

一 贈太政大臣總繼のおとゞは、贈皇太后宮澤子○明后の父、光孝天皇の御おほち、

一 内大臣高藤のおとゞは、皇太后宮胤子○多后の父、醍醐天皇の御おほち、

一 太政大臣基經のおとゞは、皇后宮穩子○醍醐后の父、朱雀天皇并村上帝の御祖父、

一 右大臣師輔のおとゞは、皇后宮安子○上村后の父、冷泉院并圓融院の御祖父、